Osaka University Knowledge Archive

Title	懐徳堂研究 第4号 編集後記
Author(s)	
Citation	懐徳堂研究. 2013, 4, p. 116-116
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/26943
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

編集後記

二〇一二年六月七日、読売新聞文化欄に、「懐徳堂版木デジタル再生」「凹凸読み取りデータ変換」の見出しが踊った。これは、懐徳堂研究センターが、平成二十三年度に制作して公開したデジタルコンテンツ「画本大阪新繁昌詩」を紹介した記事である。

『画本大阪新繁昌詩』は、明治八年（一八七五）に出版された画入りの詩集。大阪城、造幣場、大阪府庁などの大阪を代表する建造物から、庶民生活を一変させた鉄道・蒸気船・郵便・ガス灯にいたるまで、文明開化の新風がもたらした大阪の変化を細かく描写している。懐徳堂文庫には、この『画本大阪新繁昌詩』の印刷原版である版木が保存されている。そこでセンターでは、この版木をデジタルコンテンツ化し、WEB上で公開したのである。彫りの詳細を閲覧でき、この版木から刷られたと思われる紙面との対照ビューアも付いた画期的なコンテンツである。是非一度「WEB懐徳堂 http://kaitokudo.jp/」をご覧いただきたい。

この勢いに後押しされるかのように、『懐徳堂研究』第四号にも多くの論考が寄せられた。感謝申し上げたい。

（懐徳堂研究センター長　文学研究科教授　湯浅邦弘）

『懐徳堂研究』バックナンバーのご案内

『懐徳堂研究』第3号　二〇一二年二月刊

中井履軒・上田秋成合賛鶉図について　飯倉洋一・濱住真有
懐徳堂と白鹿洞書院　湯浅邦弘
中井竹山の儒者意識―その経学研究を手がかりとして―　藤居岳人
中井竹山研究序説―回顧と展望―　田世民
榛原製罫紙と『懐徳堂紀年』―永井荷風と中井木菟麻呂―　竹田健二
中井木菟麻呂における儒教とキリスト教との関係　佐野大介
『中井木菟麻呂キリスト教関係草稿類』翻刻と解説（一）　佐野大介
加藤景範『民間さとし草』翻刻・注釈　湯城吉信
藤澤東畡著『辨非物』訳注（一）―「序」部分―　矢羽野隆男
コミュニケーションを誘発する「造り物」―大阪天満宮の祝祭を中心に―　高島幸次
庄内藩校致道館設立の契機―藩主酒井忠徳と白井矢太夫の儒学観及び徂徠学の影響関係を中心として―　瀬尾邦雄
従判教到《出定後語》―佛學研究詮釋法的轉變　藍日昌